



研究・研修報告書

2024 年 10 月 15 日

小牧市議会議長 様

会派名	無会派
代表者氏名	黒木明

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

黒木明

2 日程

2024 年 10 月 9 日（水）～10 月 10 日（木） 1 泊 2 日

3 研究・研修名

「地方議会の課題と主権者教育」

4 主催者

全国市議会議長会

5 会場

岩手県盛岡市（トーサイクラシックホール岩手）

6 受講の目的

小牧市をより良いまちにする為、他の市区町村の有益な見地を得て、小牧市の発展に寄与する情報を得て、より良い市政へ役立てる事を目的とする。

7 主な内容

パネルディスカッション

「地方議会の課題と主権者教育」

コーディネーター 静岡大学人文社会科学部法学科教授 井柳 美紀

パネリスト

法政大学法学部教授

土山 希美枝

一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事

越智 大貴

読売新聞社東京本社教育ネットワーク事務局

渡辺 嘉久

盛岡市議会議長

遠藤 政幸

課題討議

「主権者教育の取組報告」

コーディネーター 東北大学大学院情報科学研究科准教授 河村 和徳

事例報告者

伊那市議会議長

白鳥 敏明

四日市市議会議員（第83代議長）

諸岡 覚

山鹿市議会議長

服部 香代

8 所感・提言・課題等

パネルディスカッション

「地方議会の課題と主権者教育」

所感

「地方議会の課題と主権者教育」のタイトルで、コーディネーターの井柳氏は「地方議会」での「主権者教育」をメインに進行された。

主に若者、高校生に焦点を当てて議論がされた。高校生からの「自転車の停止線が欲しい」という意見を受けて議会を動かし、政治の関心が高まったと話がありました。

この政治経験を、社会を政治を通して帰ることが可能であることを有権者の主権者教区において必要であり大切であることが話し合われた。

「主権教育」に関しては、教育機関と議会が連携できるかが話し合われたが、限界がある趣旨に話もあり、主権者教育をどのように行い進めていくかとの話も行われた。

選挙権、被選挙権、主権者教育についても、10代の投票率は低くないが、ただ漠然と若者の投票率が低いから「投票率を上げよう」というだけでなく。「なぜ選挙に行くことが大切なのか？」の意味も生徒自身にも考えさせる必要があると話があった。

なぜ選挙に行く必要があるのか？その答えを一人ひとりが考え多様な意見があっても良いのではないかと話もあった。

これを受けて、確かにただ「投票に行こう」と言っても、誰がどんなことを行っているかしっかり調べ、判断する必要がある。

しかし、現在の戦後教育では、ある方向に偏った教育がなされていたり、政策より、知名度、単に若さ、ルックスや有名人の人気投票のような形になってしまっている状況が強く感じられると考えます。

日本は失われた30年もうすぐ40年になろうとしています、選挙によって主権者が自ら選んだ政治家が進めた失われた結果でもあります。

日本で何が起きているか、世界で何が起きているか、手取りが増えないのはなぜか、税金が上がり続けるのはなぜか、身近な問題に主権者が選挙、政治において判断できる情報、教育がなされていないがための、現状先進国の日本だけが経済

的に成長できていないことにもつながると感じました。

課題討議

「主権者教育の取組報告」

所感

取組報告事例について3都市、長野県伊那市議会、三重県四日市市議会、熊本県山鹿市の報告。

長野県伊那市議会は、平成30年の市議会議員選挙が無投票になってから、議会への関心を高めるために「若い世代、特に高校生に議会への関心を高めてもらうために、高校生の議会傍聴、高校生との意見交換等の企画を決定」。

伊那市議会は市内の高校4校で、意見交換会や議会へ招き一般質問を傍聴してもらう等の取組を行い、高校生からは「将来政治家になりたい」「SNSをもっと活用してほしい」等の意見があった。

四日市市議会は、正副議長立候補者は公約を掲げ当選後は、公約を果たす「ワイ！ワイ！GIKAI」が始まった。

出前型意見交換会で地域の高校や大学に出向き、テーマをもとに意見交換会を開催、「よっかいち市議会だより＃こども号」こども向けの市議会便りの発行、SNSを運営したりという広がりをみせ、ほかにも各種業界団体、各種労働組合など、制限を設けずに幅広い対象との交流を目指す。

山鹿市議会は、議員のなり手不足を課題に、小学校で主権者教育で絵本の「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」を教材にして、投票を行うという授業を開催。小学生にむけた主権者教育は、地元の新聞に取り上げられ、子どもに向けた主権者教育は有効的に感じました。

主権者教育政治選挙は、各それぞれの生活環境教育によって思想、思考、などが異なり、基本的に正解が無く多種多様に選択肢があり、「自ら考える力」を育てる必要があり、子供幼少期からの教育が必要であると感じました。

言われた事、命令された事にただ従うだけでなく、自ら考え行動する人材を育てる事にも幼少期から主権者教育は必要と感じました。

小牧市でも未来を担う人材を育てるためにも主権者教育を取り入れていく必要を感じました。